



見えないけれど、  
あなたのそばに

2021年11月期 第2四半期

2021年7月1日

# 決算説明会資料



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証1部：4187

◆ 2021年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2021年11月期 業績予想

◆ トピックス

◆ 2021年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2021年11月期 業績予想

◆ トピックス

化成品・電子材料・機能化学品のいずれも好調。  
売上高・営業利益ともに半期としての過去最高を達成。

2Q 決算		(百万円)	(前年同期比)
	売上高	<b>16,933</b>	+18.1%
営業利益	<b>2,842</b>	+19.2%	

## 外部状況

新型コロナウイルス感染症の影響は続くものの、工業生産については回復基調がみられました。特に電子材料関連では、テレワークの浸透や5G世代への移行が追い風となり、好調に推移しました。

## 売上高

化成品、電子材料、機能化学品のすべてのセグメントで売上高が好調に推移し、売上高は、前年同期比18.1%増の169億3千3百万円となりました。

## 営業利益

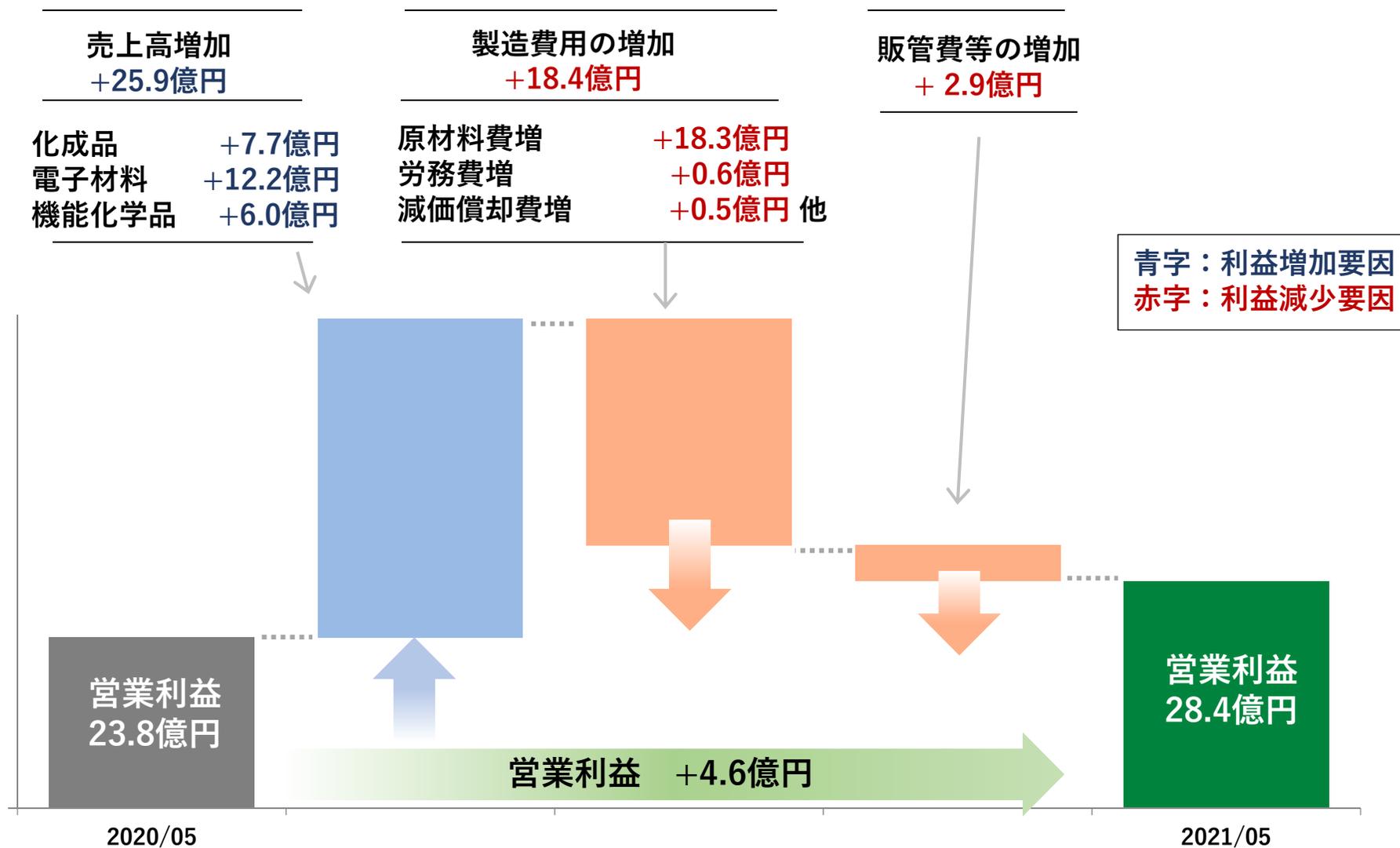
売上高の増加により、営業利益は前年同期比19.2%増の28億4千2百万円となりました。

(百万円)

	2020/05 実績	2021/05 当初予想	2021/05 実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	14,342	14,877	16,933	+2,591	18.1%
営業利益	2,384	2,263	2,842	+458	19.2%
経常利益	2,457	2,482	3,086	+629	25.6%
純利益*	1,692	1,692	2,246	+554	32.8%
国内ナフサ (¥/KL)	34,400	33,000	43,400	—	—
為替 (¥/\$)	109	103	107	—	—

\* 親会社株主に帰属する四半期純利益

原材料費の値上がり等の影響を受けましたが、各セグメントの販売が好調に推移しました。その結果、営業利益は前年同期に対し、4.6億円の増加となりました。

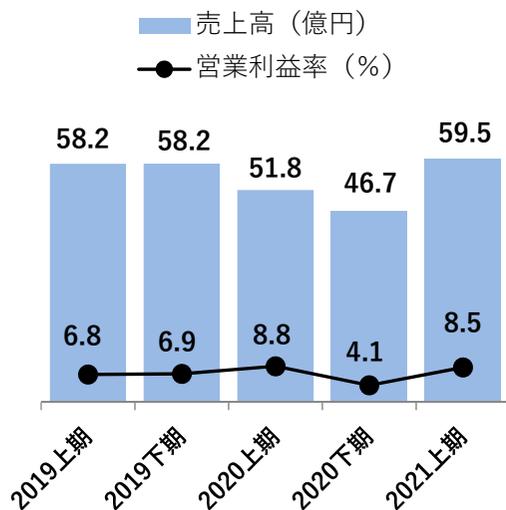


## ■ 化成品

自動車塗料・インキ・光学材料向け粘着剤の用途等、全般的に好調で**増収**となりました。販売増により**増益**となりました。

売上高  
**59億4千5百万円**  
(前年同期比 +14.9%)

セグメント利益  
**5億5百万円**  
(前年同期比 +38.4%)

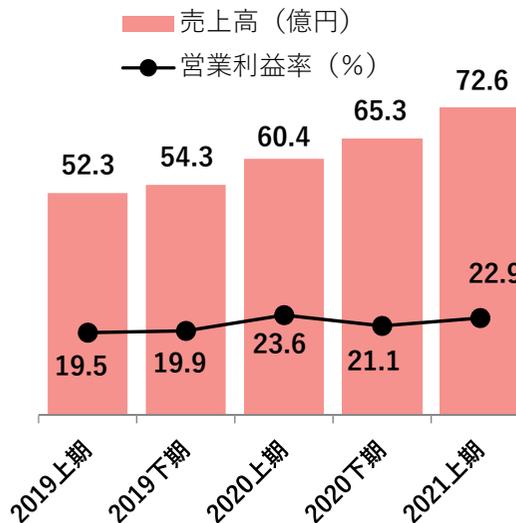


## ■ 電子材料

半導体需要の増大と、リモートワークの浸透による表示材料の需要増を背景として**増収**となりました。販売増に伴い**増益**となりました。

売上高  
**72億6千万円**  
(前年同期比 +20.2%)

セグメント利益  
**16億6千6百万円**  
(前年同期比 +10.0%)

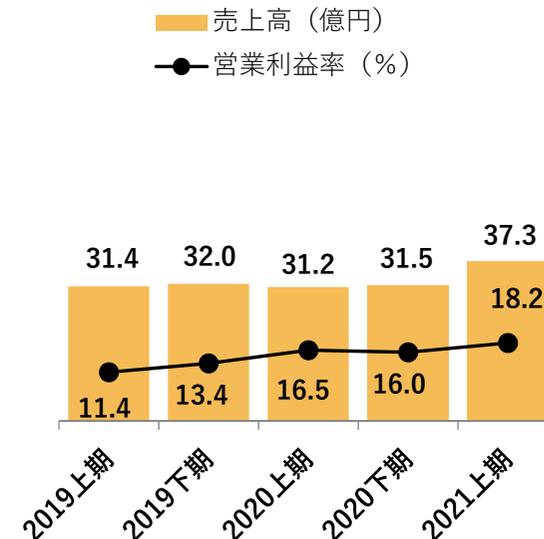


## ■ 機能化学品

化粧品原料は回復傾向となりました。2月に事業譲受した分の上乗せもあり**増収**となりました。利益率の高い製品比率の増加により**増益**となりました。

売上高  
**37億2千7百万円**  
(前年同期比 +19.3%)

セグメント利益  
**6億7千8百万円**  
(前年同期比 +30.8%)



## 営業外損益

前期は為替差損がありましたが、今期は為替差益が発生しました。また、今期は補助金収入もあり、経常利益を押し上げました。

## 特別損益

前期は設備投資に伴う固定資産除却損がありましたが、今期はそれが減少しました。また、大阪市内に保有していた土地の売却益もあり、純利益を押し上げました。

	(百万円)				
	2020/05	2021/05	増減額		
営業外収益	110	247	+137	→	為替差益 +48百万円 補助金収入 +115百万円 他
営業外費用	37	3	△34	→	為替差損 △23百万円 他
特別利益	0	119	+119	→	固定資産売却益 +118百万円 (土地の売却等) 他
特別損失	51	4	△47	→	固定資産除却損 △47百万円

青字：利益増加要因  
赤字：利益減少要因

# 貸借対照表

(百万円)

	2020/11	2021/05	増減額		
<b>資産</b>					
流動資産	23,134	25,315	+2,181	→	現金及び預金 受取手形及び売掛金 (販売増) +220百万円 +1,064百万円 他
有形固定資産	16,299	15,982	△317		
無形固定資産	70	154	+83	→	のれん (化粧品原料事業譲受) +93百万円 他
投資その他の資産	5,819	6,167	+347	→	投資有価証券 +344百万円 他
<b>負債</b>					
流動負債	7,553	7,994	+441		
固定負債	2,745	2,502	△242		
<b>純資産</b>	35,025	37,122	+2,097	→	利益剰余金 +1,737百万円 他
<b>総資産</b>	45,324	47,620	+2,296		

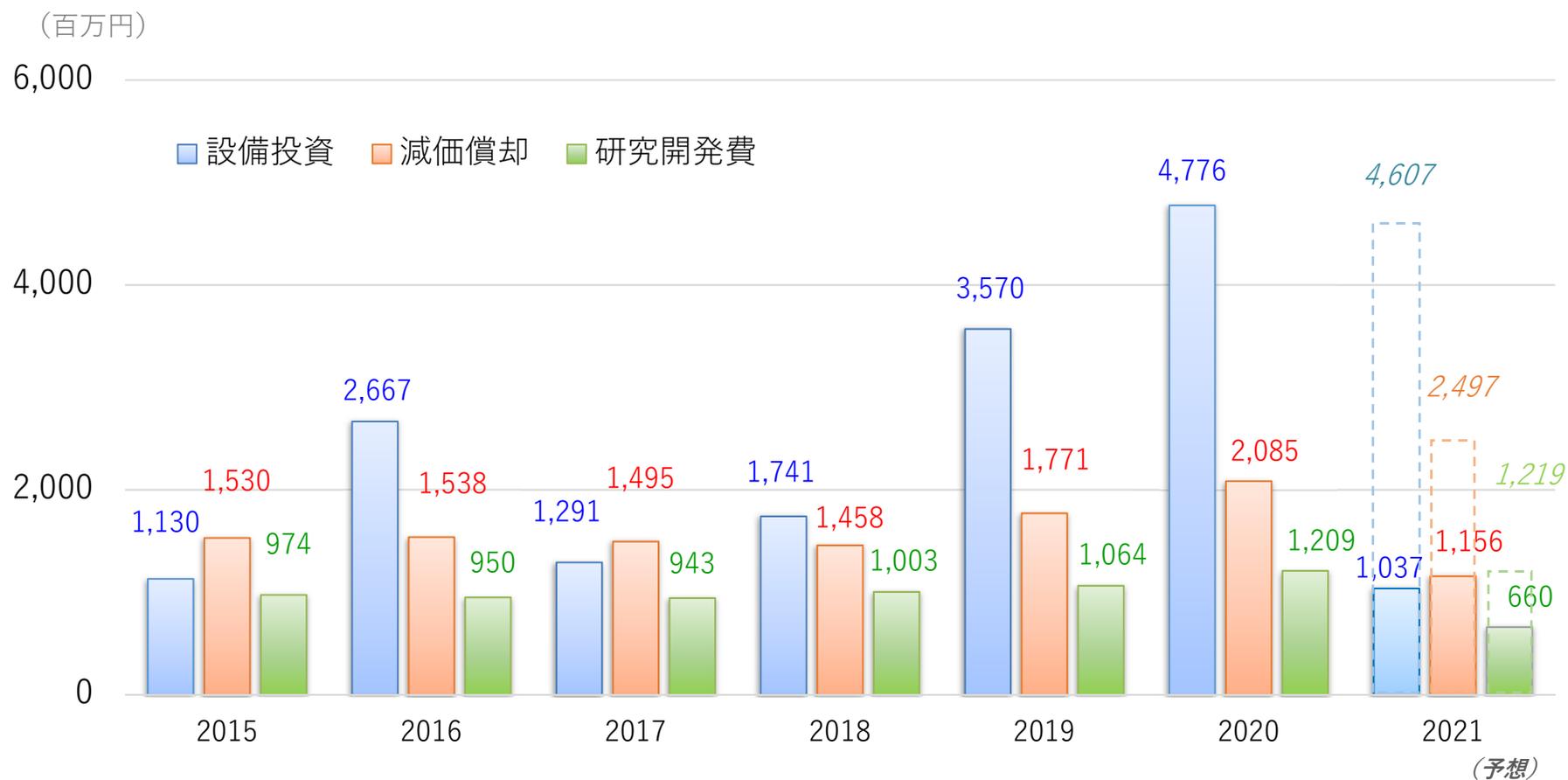
## 今後の財務指標

	2021/05時点	今後の目安
自己資本比率	77.1%	—
手元流動性比率	2.8ヵ月	3.0~4.0ヵ月
DEレシオ	0.07	0.2以下
ネットDEレシオ	-0.14	0以下 (実質無借金)
インタレスト・カバレッジ・レシオ	774倍	200~400倍

(百万円)

	2020/05	2021/05	
営業活動によるCF	3,231	2,834	→ [主な内訳] 税金等調整四半期純利益 3,201百万円 減価償却費 1,150百万円 固定資産売却損益(△は益) △118百万円 売上債権の増減額(△は増加) △1,124百万円 たな卸資産の増減額(△は増加) △675百万円 仕入債務の増減額(△は減少) 1,026百万円 他
投資活動によるCF	△1,616	△1,066	→ 有形固定資産の取得による支出 △1,650百万円 (半導体関連設備・新研究棟等) 他
財務活動によるCF	247	△939	→ 長期借入金の返済による支出 △513百万円 配当金の支払額 △509百万円
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△25	72	
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,836	900	
現金及び現金同等物の 四半期末残高	8,179	7,412	

\* 中期経営計画にて、2020年～2024年度までの累計で約200億円の設備投資を計画しております。



◆中期経営計画に沿い、適切に設備投資を行っていきます。2021年は半導体関連材料設備の装置関連の増強や、工場のユーティリティー関連を中心に設備投資を行います。

	2019年	2020年	2021年 ⇒予定	2022年	生産能力など		
化成品 製造設備増強	工事	試作	稼働		UV-IJ用モノマー等 (供給能力 +1,000 t / y)		
電子材料 製造設備増強	工事	試作	稼働		半導体用モノマー設備 新設 (供給能力 ≒ 50%増)		
	計画	工事	試作	稼働	半導体関連材料設備 増強 (供給能力 ≒ 20%増)		
			計画	工事	試作	稼働	半導体用モノマー装置 増強 (供給能力 ≒ 40%増)
				計画	工事	半導体用モノマー装置増強 及び半導体関連材料設備新設 (供給能力 ≒ 30%増) * 2023年3月完成予定	
新研究棟 建設	計画	工事	運用		新規事業の創出拠点		

◆ 2021年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2021年11月期 業績予想

◆ トピックス

### 通期業績予想

2021年5月21日に当初予想を修正し、「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」を公表いたしました。2021年11月期は、売上高が約53億円増の340億円、営業利益は約13億円増の58億円と予想しております。

(百万円)

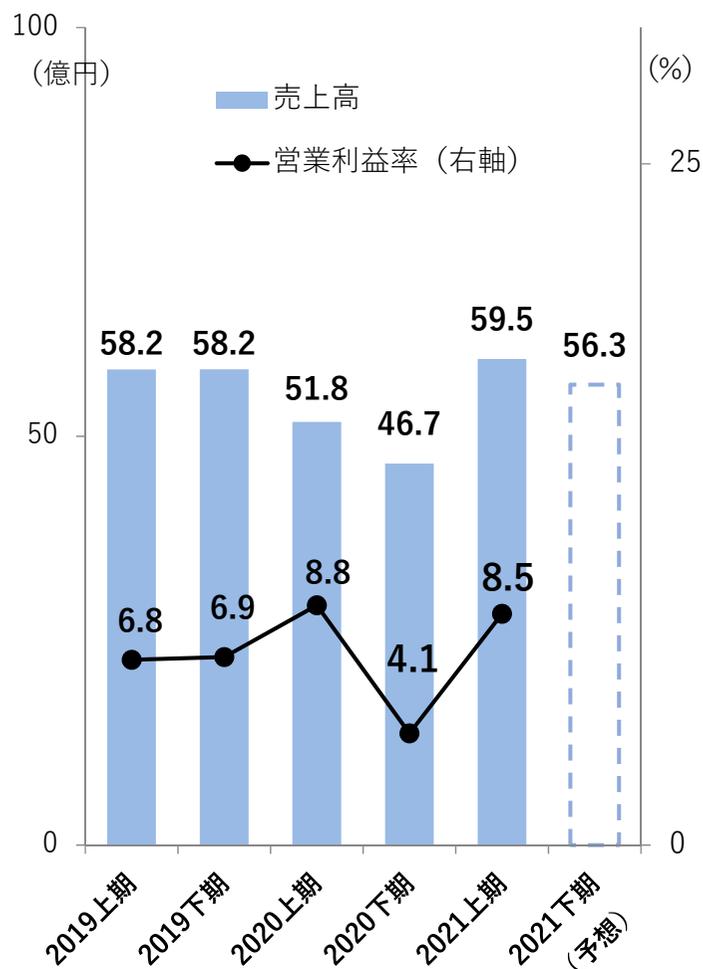
	2020/11 実績	2021/11 修正予想	前年実績比		2021/05 上期実績	半期 進捗率
			増減額	増減率		
売上高	28,681	34,000	+5,319	18.5%	16,933	49.8%
営業利益	4,442	5,800	+1,358	30.6%	2,842	49.0%
経常利益	4,612	6,100	+1,488	32.3%	3,086	50.6%
純利益*	3,313	4,400	+1,087	32.8%	2,246	51.0%
国内ナフサ (¥/KL)	32,800	—	—	—	43,400	—
為替 (¥/\$)	107	—	—	—	107	—

\* 親会社株主に帰属する四半期純利益

## 業績予想

上期実績 **+27.4%** (対2020年下期)

下期予想 **△5.3%** (対2021年上期)



### 外部環境

- 昨年コロナ禍で減産となった自動車産業は回復基調であったが、今春ごろより半導体不足の影響により各社減産の方向。

### 当社の状況

- 塗料・インキ・粘着剤の各用途向けの製品がコロナ前の水準に戻る。
- 市場動向の見極めと主力製品の拡販、価格調整や製品の改廃を進める。
- 天然由来の製品の拡充に努める。

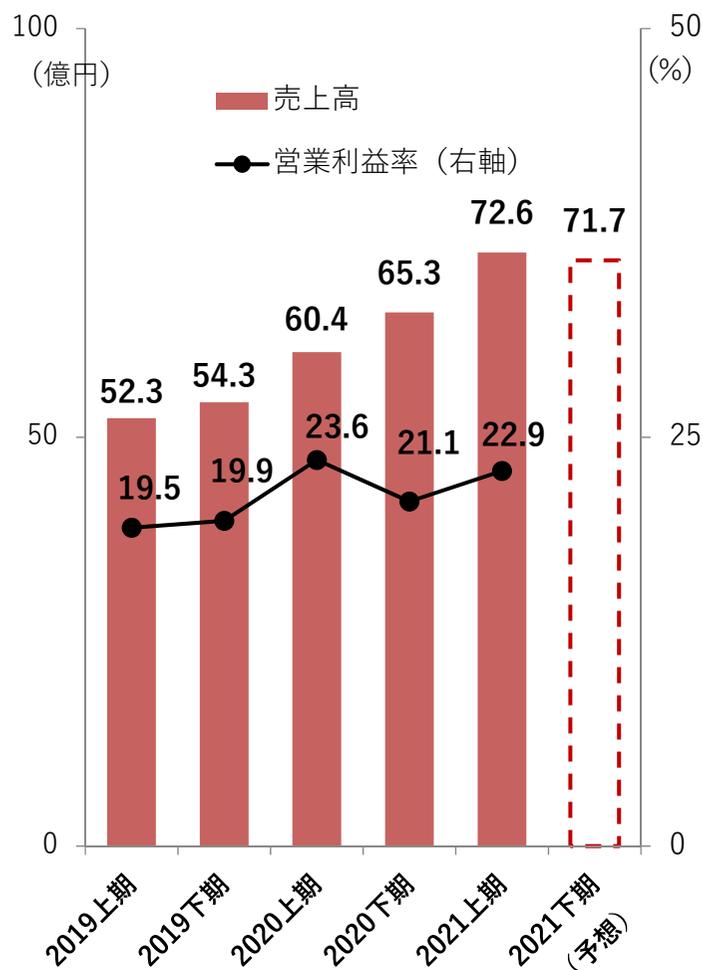
### 市場におけるリスク

- 原油価格の変動。
- 天然由来原料相場の高騰。
- コロナ禍による経済動向。

## 業績予想

上期実績 **+11.2%** (対2020年下期)

下期予想 **△1.3%** (対2021年上期)



## 外部環境

- 「5G」の普及やリモートワーク増加の影響などで半導体市場は拡大。2021年の半導体市場規模は、過去最大になる見込み。
- 最先端のEUV露光はアジアを中心に実用化が進展。
- 巣ごもり需要によりFPDも需要が増加。

## 当社の状況

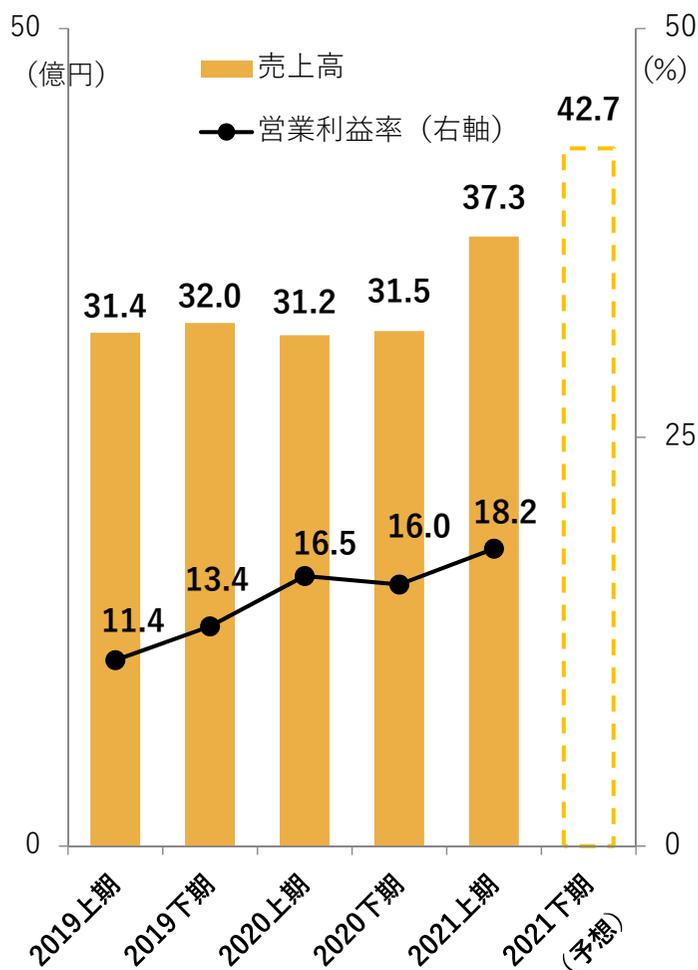
- ArF露光用レジスト原料は引き続き好調であり、ニーズへの対応に注力していく。
- EUV用途の材料は横ばい。さらなる採用増を目指す。
- FPD関連材料も引き続き顧客要望の実現と拡販に努める。

## 市場におけるリスク

- 米中経済対立の激化。

業績予想

上期実績	+18.3%	(対2020年下期)
下期予想	+14.5%	(対2021年上期)



外部環境

- コロナ禍で引き続き化粧品の国内市場は停滞。
- 中国の化粧品市場はコロナ禍でも拡大している。2024年には、2019年比で6割増に達する見通し。

当社の状況

- スキンケア用シートマスクに好適な機能（保湿性など）を有する化粧品原料を中国などへ拡販。
- 超親水性材料、半導体用添加剤のサンプルワークを進める。
- 2月に三菱ケミカルから頭髮化粧品用アクリル樹脂の事業を譲受。海外市場への販売を進める。
- 特殊溶剤の用途展開を進める。

市場におけるリスク

- 国内化粧品需要の落ち込み長期化。

◆ 2021年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2021年11月期 業績予想

◆ トピックス

当社では、女性活躍推進の一環として、女性が活躍できる職場環境づくりを目指し、以下の事例をはじめ様々な施策を実施しております。

(事例)

- ・ 子育てのための時間短縮勤務  
時差勤務の対象となる子の年齢を、3歳から9歳までに拡大。
- ・ 育児休業の取得  
復帰の前後の不安解消と上司の理解の促進への取り組み。

\* これらの取組みに対し、大阪市より表彰していただきました。

## ●大阪市女性活躍リーディングカンパニーとして認証

「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」  
として、二つ星認証を取得しました。

2020年11月1日  
二つ星認証取得



## ●2021年度 市長表彰

特に優れた取組を行っている企業として、大規模企業部門の「優秀賞」を受賞いたしました。



表彰式：2021年3月8日

# バイオマスアクリレート

持続可能な開発目標(SDGs)に向けた活動として、植物由来の原料を使用した特殊アクリル酸エステルを「バイオマスアクリレート」と名付け、開発を行っております。

化学品 Chemical

特殊なアクリレートで皆様をお手伝いします。

川上原料ほど、少量多品種を生産するのは難しいものです。当社の化学品部では、樹脂原料へ応用できる蒸留アクリレートを中心に、少量多品種を扱うために生産設備だけでなく組織も最適化することで皆様の製品の隠し味を提供しています。



**→ バイオマスアクリレート**

持続可能な開発目標(SDGs)に向けた活動として、バイオマス由来の原料\*を使用した特殊アクリレートをバイオマスアクリレートと名付け、開発を行っております。

既に当社が製造販売しているバイオマスアクリレートについては、バイオマス由来の炭素比率が80%を超える製品もあり、バイオマス比率の高い材料の提案が可能です。

\*バイオマス由来の原料とは、植物由来の原料を表していません。



**塗料の原料向けアクリルモノマー**

当社のアクリルモノマーは高度に精製されているものが多く、UV/EB用の他に、樹脂原料としてご検討頂けるものを多数取り揃えております。

自動車用トップコートに使われるアクリルポリオール向け原料を始めとして、汎用アクリレートでは達成できない高反応性、耐擦傷性、密着性などを付与することができます。純度が高いため、低着色、低粘度、低酸分などのメリットがあります。



**粘接着剤向けアクリルモノマー**

種々の用途を持つ粘接着剤に対し、当社のアクリルモノマーを使うことで、靱性や伸び、屈折率のコントロールなど様々な機能を付与することができます。

通常の溶剤型の粘接着剤の他にも、UV硬化型の粘接着剤や嫌気性の粘接着剤にもご使用いただけます。その他、塗料向けと同様に、低着色、低粘度、低臭気などのメリットがあります。

既に当社が製造販売しているバイオマスアクリレートについては、バイオマス由来の炭素比率が80%を超える製品もあり、バイオマス比率の高い材料の提案が可能です。

\* 当社ホームページで公開しています。  
<https://www.ooc.co.jp/products/chemical/>

## 脱炭素社会実現に向けた取り組み

当社では、これまでも様々な方法でCO<sub>2</sub>の削減に取り組んできました。2021年3月には、社内に「カーボンニュートラル実現検討委員会」を発足し、グループ一丸となって、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいきます。

### ◆脱炭素社会実現に向けたCO<sub>2</sub>削減率目標（2013年度比）

年度	2030年度	2050年度
目標	30%以上削減	実質ゼロ
施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ</li> <li>・高付加価値製品への移行</li> <li>・太陽光パネル導入</li> <li>・リユース 他</li> </ul>	（日本全体のインフラ整備や、技術革新が必要）

#### < 実施事例 >

金沢工場管理事務棟の屋上に太陽光パネルを設置。（2021年7月運用開始）

CO<sub>2</sub>削減量（予想）≒68（t/年）



## 八千代事業所の閉鎖（2021年6月）

当社では、大阪市内に保有していた駐車場の土地を売却するなど、保有資産の効率化を進めています。

八千代事業所は、関東地区の物流拠点として稼働してきましたが、物流業務を各工場・事業所へ集約することとし、八千代事業所を閉鎖いたしました。

名称：八千代事業所

所在地：千葉県八千代市大和田新田 601

面積：2,380m<sup>2</sup>



### 大阪有機化学工業

●	...	事業所
●	...	工場
●	...	グループ



光碩（上海）化工貿易有限公司



神港有機  
化学工業(株)

酒田工場

金沢工場

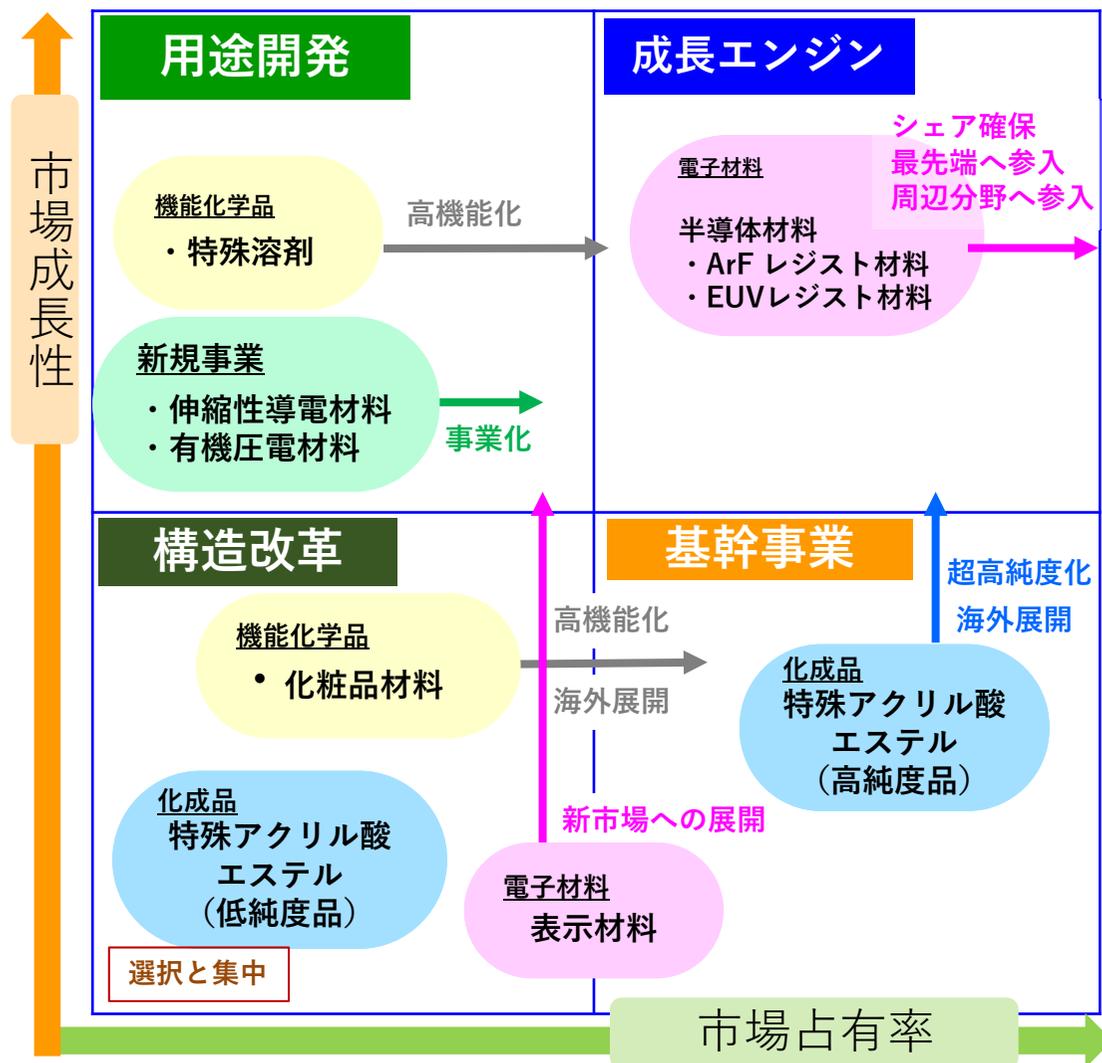
八千代事業所  
(2021年6月閉鎖)

本社

大阪事業所

東京オフィス

- 当社材料群の特性を明確にして活動を行います
- ◆半導体事業は、最先端材料でさらに伸ばしていきます
  - ◆特殊アクリル酸エステルでは、低純度品は製品の選択と集中を進めます  
一方、高純度品は海外展開と高純度化による付加価値向上を目指します
  - ◆機能化学品においては、高機能化や海外展開により利益貢献度の向上を目指します
  - ◆新規事業については、研究環境を整備し、用途開発を進めていきます



主な施策 (公表済み分)

- **半導体材料のシェア確保**  
半導体材料製造設備増強のため、45億円の設備投資を決定 (2021/5/21 公表)
- **OUVC2号ファンドへの出資**  
ベンチャー企業との連携などにより新規事業の機会拡大 (2021/5/12 公表)
- **最先端、周辺分野への参入**  
有機ELフレキシブルディスプレイ用の薄型積層フィルムの量産・販売を開始 (2020/10/8 公表)
- **化粧品材料の海外展開**  
三菱ケミカル(株)より頭髮化粧品用樹脂事業を譲受し、海外展開の機会を創出 (2020/8/19 公表)
- **研究環境の整備**  
2020年11月、大阪事業所内に新研究棟が完成 (2020/1/9 公表)

投資金額

(2020-2021年上期実績) (2020-2024年累計予想)

58億円

200億円



# 見えないけれど、 あなたのそばに

## <注意事項>

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】  
管理本部 IR・広報担当  
TEL 06-6264-5071 (代表)



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証1部：4187